

JIA長野県クラブ50

社団法人 日本建築家協会

2001. 9. 1



▲7月25日、松本市で開催した第9回本音で語ろう会



▲本部から大宇根 弘司CPD評議員・運営委員長を招いた



▲ワークショップの後に行なった全体発表



接続可能なCPDへ期待

副会長 上村 保弘

JIAではCPD（継続職能研修：Continuing Professional Development）への取り組みとして、正式発足に向け規則案や細則案を「CPD試行2年目を迎えて；2001年6月」に示しました。このCPDはUIA（世界建築家連合：Union Internationale des Architectes）の「建築家実務の国際推奨基準案」によると、「建築家の持続的能力を確実にするため、知識及び技術を維持、向上または増大させる生涯学習のプロセス」という定義※1を与えており、JIAも逸脱するものではありません。（※1：QUA クウェイNO6, 1998.）

建築家についてのCPDの背景には、1975年の英国建築職能継続教育発展ヨークセンターの例が知られていますが、諸外国ではすでに数十年をかけ試行錯誤が行われているようです。これらは建築家の責務を社会的に重要視している結果だと思います。

記憶に新しい九州・沖縄サミットでは国際協調として「IT」が採択されました。このITはすでに私たちの生活になくてはならないものになっていますし、建築家の職能も境界のない情報空間の上で様々な試行錯誤が行われています。その成果物である建築が国内外どこに存在し

ようとマクロ（巨視）的な視点で見れば国際的な関わりを全く否定することはできないのではないでしょうか。

国際標準化機構であるISOは、工業規格から環境規格まで発展してきました。これは、世界どこでも一定の水準を保つことを目標にしたマネージメントシステムですが、家内的な「ものづくり」が標準化によって国際化してきたことを意味しています。この「ものづくり」は当然何らかの形で「人」を介しますが、この「人」の職能がある一定の技術を持ち継続されなければ質の低下を招きますし、社会の循環システムにも影響を及ぼしかねません。

私見で恐縮ですが、建築家の果たすべき社会責任は重く、十分な技術の上に立脚しない建築はまちを崩壊させる危険性を持っていると常々考えています。私たちが暮らすまちは多くのものが溢れていますが、この「もの」・「ひと」・「まち」という3つのキーワードは絶えず密接な関係を持ち決してお互いに独立しているものではありません。まちは、先祖からの文化の継承ですし、子々孫々伝えていかなければならない義務を私たちは担っています。そのような意味からもCPDの早期実現に向けて心から期待を寄せる次第です。



「本音で語ろう会」を終えて

松下重雄
会長

7月25日、国宝松本城に面した「第一会館」にて第9回「本音で語ろう会」が開催されました。本部よりCPD評議員・運営委員長の大宇根弘司氏をお招きして、「CPDについて」のテーマでワークショップ形式で行われました。1月に続き二度目の要請にもかかわらず快くお受けいただき、御多忙中御遠方を駆けつけていただきました。

冒頭、大宇根さんより現況報告をしていただき、6テーブルに分れて「CPDの何でも質問箱」と「認定プログラムはこれだ!!」の二つについて語り合い、発表し、アドバイスをいただきました。実に多様な意見が交わされ認識が深まったと思われます。今後は会員委員会でまとめられ、認定プログラムの登録を行います。JIA NEWS2000-9月号及び2001-7月号付録熟読の上、いよいよ各自実行に移してください。

必死の呼び掛けをしたにも拘わらず、いつもの顔ぶれだけでしたが、賛助会の積極的参加と真剣な本音での語らいが救いとなりました。“出なければ損”と思ってもらえるまで活動は継続するつもりです。久保委員長以下会員委員会の皆様御苦労様でした。



「愛と情熱の家づくり」vol.2企画中

関邦則
総務委員長・情報特別委員長

クラブ内のメールネットやホームページは昨年中に一応の整備を行いました。このことは情報特別委員会の担当でしたが、実際の運用については総務委員会の担当でもあろうかと思います。なかなか一気に整いそうはないのですが、今は構造改革とともに意識改革も必要な時代です。できるだけ早期にクラブの情報環境整備が進められるようご協力いただきたいと思います。

今年は懸案の「愛と情熱の家づくり」vol.2の発刊に取り組んでいます。情報特別委員会がそのまま編集担当になっており、これまで何度も検討を重ねてきました。今回は直接オフィスエム社に協力していただくことで進めておりますが、7月になってようやく企画書がまとまりましたので募集に移り、できるだけ早く発刊したいと考えています。今回は前回よりも少ない費用負担で、しかも質を落とさないという工夫を考えました。具体的には建築家の作品というよりもワークスタイルについて知つてもらうというこれまでにあまりなかった手法によって、プロフェッショナルに対する理解を深めてもらおうと考えています。これはどうしても必要な情報発信です。いっしょに良いものをつくりたいと思います。



CPDを踏まえ新たなる役割

高橋重徳
交流委員長

今日、建築業界は大きな転換期を迎え、私達と社会は新たな関係を求められています。こうした状況の中、当会が進めているCPD(継続職能研修)の持つ意味とその必要性は、益々高まっております。こうした社会に応えるべき大切な施策であるCPDの励行により、各個人は勿論のこと、当クラブとしても地力をつけていくことが重要です。

そこで、本年度の交流委員会は、今まで多年に渡り築いてきた会員相互の信頼関係を基軸に「共に学び合う研鑽の友」となるための環境づくりを目指します。

特に、賛助会員の皆さんには、CPDのプロバイダーとして、技術交流会などを通じ、正会員のための勉強の機会を提供して頂くと共に、正会員と更に強力な車の両輪の役割を果たして頂ける様、努力してまいります。

また、従来から実施しております、コミュニケーションファイルの内容を改訂し、会員に新鮮でタイムリーな情報を提供致します。

今後共、会員の皆さんの事業への参加や委員会活動への積極的参加を頂くことで、お互いの理解と親睦を深め、楽しく学べる様進めてまいります。



『継続職能教育』動き出す

久保隆夫
会員委員長

昨年度に引き続き会員委員会を担当致します。当委員会は、会員の増強を目的とした全員参加による事業展開を望まれるところですが、苦戦しております。

例年より主な事業は「建築見学会」「本音で語ろう会」などの活動をしてまいりましたが、本年度からはCPD(継続職能教育)を推進することが課題となります。

今までの事業計画に加え「シリーズ研修会」(年3~4回)などにより会員各自の研鑽活動の機会を増やすと共に、CPDと関連する他の委員会事業と相互連携により活性化を図りたいと思います。

皆様も既にご周知のとおり、わが長野地域会では昨年度より「継続職能教育」のプロバイダー資格を取得いたし、建築家としての自己研鑽を自主的に活動、評価認定できる仕組みが整いました(説明会を2回開催)。本年度はまだ試行期間ではありますが、本格的始動に向けて私どもの委員会では多くの会員が参加しやすい事業、テーマの設定、そしてプログラム策定が急務とされております。CPDの活動はあくまでも過程=手段であることを理解していただき、一人でも多くの参加により我々の「職能」が一般市民に評価されることを期待しております。



もの・ひと・まち

上村 保弘
事業委員長

平成13年の夏は暑さが連日記録を更新しました。景気の底冷えにちょうど反比例するように思われた方も少なくないのではないかでしょうか。以前、この欄で21世紀を目前に控えた事業委員会の抱負を記載させていただきましたが、その中で「官民協調の時代」を述べました。

建築を生業とする者のひとりとして、確かに21世紀は新しい方向へ軌道修正を始めるための「風」が吹き始めたことをほんのわずかですが感じることができます。

JIAではすでにCPDについての具体的取り組みを始めていますが、このCPDは建築家が担うべき社会責任への認識をいかに持続させ技術の更新・維持を行うかということに主眼が注がれています。

CPDへの取り組みは、事業委員会が行っているあすなろ建築展と学生卒業設計コンクールにも十分当てはまると考えています。すでに専門学校を新規に組み入れた学生卒業設計コンクールは軌道に乗りつつあります。また、あすなろ建築展も継続して行っていきますが、CPDが求める持続可能な職能を考えますと、ひとがものとまちに密接に関わっているという視点で見たとき、より新しい何かが発見できるのではないかと考えています。



会報「JIA長野県クラブ」の役割

依田 政司
広報委員長

会報誌「JIA長野県クラブ」は、会員の皆さんに各種の県クラブ主催の事業の報告や感想、また日頃思っている事や感じている事を、寄稿していただいている。

日頃言葉を交わす機会が少ない会員や、賛助会員の皆さんに、理解しあえるよですがとして会報誌が役立てば幸いです。恒例の「本音で語ろう会」とは別の意味で、会員相互の交流と意思の疎通が、図れるように編集していくたいと思います。また、この会報誌は建築関連の官公署や教育機関にも配布されています。配布先の拡大の検討とともに、私たちJIA長野県クラブが、どのような考え方を持ちどのような活動をしている集団なのかを、地域社会の皆さんに正しく理解していただくことも大切な事だと思います。

ところで今年はCPD（継続職能研修）試行2年目にあたり、県クラブでも様々な事業が意欲的に計画されています。会員全員に、この情報が網羅されるように会報誌が、役立てばと思っています。

それと同時に、折につけ地域社会の皆さんにも会報誌を通してCPD活動をアナウンスして、建築家の職能とか、長野県クラブの存在意義を、地域社会の皆さんと共に語り合えるメディアになればと思っています。



住民に顔を向けて

川上 恵一
まちづくり委員長

まちづくりを考える時、建築が街に多大な影響を与えていたるにも関らず、当の建築家にはそれ程まちづくりの意識が高くないようと思われます。現に建築家によって建てかえられた新しい街が以前より悪くなつたと聞いたり、建築家がまちづくりに無関心だったりしているのは残念なことです。それは日頃の設計業務の中で当面の生活費を稼ぐのに汲々とし、職能を通して社会に貢献するという意識を常に持ち続けることの難しさでもあります。例えば県クラブが主催する人気建築家の自作発表の講演会に群がる多くの仲間達を見ると、私達が住民とは違った方向を目指しているように思われ、危惧されます。まちづくりの旗手は、私たち建築家ではなく、その地域の住民や街や村が主役です。私達はまず、地域を愛し、役目を実感し、人々に知ってもらうことを進めるべきです。そうした思いを持って、当委員会は昨年の飯田・松本・小諸・須坂のレポートに引き続き、奈良井宿・下諏訪・東部町・山ノ内町の県下4地域を調査し、わかり易くパネルにしてまとめようと思います。そのことが仲間への情報発信となり、本来のまちづくりのきっかけになればと願うものです。



“共生共栄の道”

坂田 守夫
賛助会長

建設業に携わる我々にとっては、長野県は不景気の風が特に強く吹いている感があります。JIA長野県クラブの賛助会としても、非常に厳しい時を迎えており正念場に立たされているのが現状です。賛助会である仲間が脱落していく可能性もあります。しかし、我々賛助会員としても、この難局を指をくわえて見ていくだけでは駄目になってしまいます。正会員の先生方も必死で努力をしております。賛助会でも全面的に協力していく所存です。我々賛助会員も先生方に有利になる様なノウハウを提供してお互いに生きていく道を探そうではありませんか？

今後、交流委員会(7/6)、本音で語ろう会(7/25)、交流ゴルフ大会(11/7)、技術交流会・忘年会(12/7)、新年会(1/23)と行事があります。一人でも多くの賛助会員の皆様方に出席して頂き、先生方と仲よくなつて頂きたい。本年は「愛と情熱の家づくり」vol.2-信州こだわりの建築家ガイド2001-が発刊の予定です。より多くの先生方が参加し（全員が望ましいと思う）良い本を作つて下さい。賛助会としても多少の援助をする予定です。

何はともあれ、先生方と賛助会員はお互いに議論を交しながら仲よく進んでまいりましょう。

クラブインサイド

第1・2回正副会長・委員長・賛助会長会

松下重雄

第1回は6月4日松本で開催。支部派遣委員の確定、2001年度事業スケジュールを中心に話し合う。第2回は7月6日長野で。本音で語ろう会、納涼会、地域サミット長野開催受入れ、アーキテクツガーデン出展を討議。

第1・2回会員委員会

久保隆夫

6月21日・7月16日の両日ルートイン松本ICにて開催。継続職能研修(CPD)の説明会として、夏版“本音で語ろう会”実行に伴う準備、全会員への参加要請、また“シリーズ研修会”的テーマ設定などが協議された。

第3・4回幹事会

赤羽吉人

第3回は6月22日松本にて開催。中心議題はCPD。勉強会開催と認定プログラム提供準備を並行して進めることになった。第4回は7月25日松本にて開催。金沢大会への参加要請。「愛と情熱の家づくり」第二集企画書案承認。多くの会員の参加が期待される。幹事会に引き続きCPD勉強会を兼ねた「本音で語ろう会」と松本城天守閣の夜景を楽しみながらの「納涼会」が開催された。

第1回情報特別委員会

関邦則

7月3日(火)、ルートイン松本ICにて開催。「愛と情熱の家づくり」vol2の企画について、オフィスエム担当者も同席で検討。できるだけ早く募集に入る。

第1回交流委員会

高橋重徳

7月6日長野で開催。CPD対応を踏まえ、本年度事業計画の内容を検討。技術交流会等への積極的な協力、コミュニケーションファイルの改訂が決定された。

クラブアウトサイド

2001年度支部通常総会

松下重雄

5月23日開催。決算報告に続き2001年度活動方針案と予算案が承認されたが、昨年度より約5%の緊縮財政の中でCPD等の実効性を上げるのは多難と思われる…。

全国地域会合同会議

松下重雄

5月31日～6月1日の2日間にわたって、全国各地域会代表者が集まり、初日は「地域会の意義と位置づけ」について、2日目は「CPD」の取組みについて討議された。

第119回本部理事会

出澤潔

7月25日開催。17報告事項、2審議事項、8協議事項。分厚い会議資料を前に精力的に審議。限られた字数での報告は極めて困難。JIANewsを熟読下さい。

第4回支部保存問題委員会

依田政司

7月6日開催。現在審議中の問題が15件程あり、継続審議する。その他芦原太郎事務所の辻さんが特別出席しモーガン設計の旧横浜競馬場について説明された。

第2回支部業務委員会

関邦則

6月8日(金)、千葉クラブの役員会開催に合わせて、業業務委員会としてクラブ訪問。十数名の出席だったが、プロポーザルの問題点などについて意見がだされた。

第1回地域サミット

松下重雄

6月11日、横浜にて神奈川地域会のガリバー展に併催。関東甲信越支部地域会代表者と支部役員が、本部・支部総会後のJIA活動全般について話し合った。

第3回アーキテクツガーデン2001実行委員会

上村保弘

6月13日開催。テーマは「緑ゆたかな街と建築」。市民、学生参加のフォーラムは「環境問題について」。地域会の参加は自由参加とするなどが協議決定された。

第1回総務委員会(拡大)

久保隆夫

7月12日、総務・会員の統合委員会の初会合。財務の健全化、規定の見直し、委員会の統廃合、会員増強への企画など検討課題も広角となる見通し。

第3回支部役員会

松下重雄

6月20日JIA館にて。今年度支部委員会構成と旅費交通費見直し(一律1000円減)を承認。11月末か12月初旬に、長野での地域サミット開催が要請された。

第2回本部会員増強委員会

出澤潔

7月13日開催。近年、顕在化しつつある会員の減少に対して、会の発展のため会員の年齢構成を視野に入れながら、積極的な会員増強を図る事とし、具体策が検討された。

新入会員紹介

事務所会員	(株)フジ設計 館 KAN 設計工房	(南安曇郡穂高町) (伊那市)
賛助会員	(株)ノースフィールド	(伊那市)



JIA長野県クラブ

編集人 依田政司
発行人 松下重雄
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026(232)3897
FAX 026(232)5303
作成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。